

令和3年度第1回総合教育会議 会議録

1. 開催日時 令和3年6月29日（火） 15:30～16:40

2. 開催場所 西条市庁舎新館4階404会議室

3. 出席者 【構成員】

西条市長 玉井 敏久

教育長 伊藤 隆志

教育長職務代理者 河本 千恵子

委員 鳳 慶洲

委員 福田 亜弓

委員 一色 一成

【構成員以外】

経営戦略部長 高橋 雄次

総務部長 矢畑 淳

市民生活部長 曾我部 道昌

管理部長 三好 昭彦

指導部長 松井 直樹

市民生活部副部長兼市民協働推進課長 渡邊 英俊

人権擁護課長 安倍 和紀

教育総務課長 戸田 章裕

教育総務課主幹 村上 彰彦

社会教育課長 前谷 浩教

指導部副部長 合田 公昭

学校教育課長 松本 卓也

学校教育課主幹 黒河 幸彦

【事務局】

経営戦略部副部長兼秘書課長 大西 保彦

政策企画課長 吉井 靖仁

政策企画課専門員兼政策企画係長 大久保 武

政策企画課政策企画係主任 越智 太紀

4. 市長挨拶

今回から一色委員が加わり新しい体制で意識合わせをしていきたい。本日の会議は、報告案件1件、協議案件2件となっている。皆さんから忌憚のないご意見をいただきながら、子どもたちの教育力向上を目指したいと考えているのでよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の関係では、ワクチン接種が順調に進んでいる。個人病院の接種

が順調に進む一方で全国的に集団接種に空きがある状況になっている。西条市では、こういった空いた枠をエッセンシャルワーカーに充てている。また、ワクチン接種を希望する小中高の先生方については、1 回目の接種を終えている。18 歳以上の子どもたちにも接種権をお配りしている。12 歳以上 18 歳未満の子どもたちについては、夏休みの期間を利用して希望する人に個別接種を進めていきたいと考えている。もう少し時間をいただくことになるが、安心した学校生活を送ってもらいたいと考えている。

5. 報告

(1) SDG s 未来都市および自治体SDG s モデル事業の選定について

【経営戦略部長から説明】

市長 西条市の最上位計画である第2期西条市総合計画後期基本計画に「みんなで実現しよう！持続可能な西条市」を合言葉として掲げている。SDG s を推進するためには、小学生にもわかるような丁寧な説明が必要だと考えている。今回の事業については、先ほど説明があったが、まだ検討段階のため見えていないところがある。この先、具現化したものが見えてくると思うが、教育分野においては皆さんの力をお借りしたい。

福田委員 自治体SDG s モデル事業にあるSDG s i n g メーターについて教えてほしい。

経営戦略部長 SDG s i n g メーターは、今回の事業の特徴的なもので、このあたりが国からも評価されたと認識している。SDG s i n g メーターは、参加者がSDG s に関する活動に取り組むことで関連するメーターがあがる仕組みとなっている。例えば、わくわく健康ポイント事業に参加して事業に取り組むと「社会」のメーターがあがり、清掃活動などのボランティアに参加することで「環境」のメーターがあがる。地元商店で商品を購入すると「経済」のメーターがあがり、その際にエコ商品であった場合、「環境」のメーターもあがるといったものを想定している。一人ひとりの個人メーターを可視化するとともに、個人メーターの積み上げを西条市全体のメーターとして可視化することで、個人および西条市におけるSDG s の達成度を検証できる仕組みとなっている。また、1 年間をとおして活動した結果、「経済」は良かったが、「環境」の取組みが弱いと感じた場合、翌年は「環境」を意識して取り組んでいただけるような仕組みにしたいと考えている。SDG s i n g メーターはスマホにアプリをダウンロードしていただくことを想定しており、スマートフォンをお持ちでない場合は、専用のカードを発行するなどして対応できないか検討中である。また、地域ポイントであるLOVE S A I J OポイントとSDG s i n g メーターを連動させるとともに、ひとつのアプリで管理できるようなものを開発したいと考えている。

福田委員 わくわく健康ポイント事業に昨年度から参加している。体組成計で計測することで今月は何が上がって下がったか知ることができ、健康管理において素晴らしい取り組みだと考えている。今回のSDGsの事業では、健康に限らず様々な面で一人ひとりの活動がデータとして可視化され、それが市全体のメーターに反映されるということでも期待している。

経営戦略部長 可視化することが大事だと考えている。見えると頑張れる。そこがポイント。

市長 将来的に隣町とか東予地方に展開できないかとも考えているが、まずは足元からしっかり取り組んでいきたい。

河本委員 これからこういった取り組みになるか楽しみにしている。西条市全体で一致団結して課題に取り組む姿をみせることが、将来を担う子どもたちにとって大事な教育のひとつになる。小中学校の子どもたちも、保護者や地域の方と何らかの形で取り組みに参加することができれば、まさに全市的な取り組みになるのではと思い楽しみにしている。

市長 今回の取り組みのなかで、子どもたちに関係するところがあれば詳しく説明してほしい。

事務局 環境面において、例えば、アクアトピア水系でイベントなどでできればいいと考えている。現在、SDGs i n gメーターの仕組みとうまく連動するように、関係者と意見交換しているところである。

一色委員 SDGs未来都市の具体的な期間と事業に対する目標、協力の依頼先があれば教えてほしい。

事務局 SDGs未来都市としては、国連で定めている2030年を目標とすることになる。自治体SDGsモデル事業の実施期間は3年間になる。そのため、2030年を見据えてこの3年間でどう取り組んでいくのかということになる。商工会議所関係者の方にもご参加いただき意見交換しているところであるが、これから環境、経済、社会すべての側面の皆様と協議できるようにしたい。もちろん学校関係者とも協議していきたい。

6. 協議

(1) 西条市における持続可能な開発のための教育(ESD)の推進に向けて

【経営戦略部長から説明】

市長 ESDの推進に係る現状について説明をお願いしたい。

学校教育課長 小中学校の現状については、総合的な学習の時間においてSDGsおよびESDに関連する学習を行っている。学校行事や生徒会活動で行っているところもある。しかしながら、市で統一してSDGsやESDの視点で計画・実践・評価をしている段階には至っていない。現状は、あえてESDという言葉を使わず教職員の自主的な気付きからESDの推進を行っている。ESDを実践するためには、生徒が主体的に考えるだけでなく、教職員も自主的に考えて互いに学びあうことが重要になる。今年度中に、ESD推進の第1段階である「校長や教育委員会がリーダーシップを発揮する」ための研修を行うかどうか検討している。また、来年度の方角性も検討する必要があると考えている。現在各学校において実施している学習、活動、行事がどのようにESDに繋がるか確認するタイミングであるとも考えている。

鳳委員 現在は、あえてESDという言葉を使っていないが、今後は、西条市でESDを前面に押し出して推進していく予定なのか。

学校教育課長 令和4年度からは「西条市立小中学校ESD活動」のような名前をつけて取り組んでいく予定である。地域の現状や子どもたちの状況に応じて柔軟に取り組んでいきたい。SDGsの大きい目標としては、環境、経済、社会のバランスがとれ、子どもたちが安心して暮らせる未来であると考えているが、各学校、学年、学級において、例えば、環境や命をテーマにするところがあるかもしれないが、このあたりは学校にお任せする形になる。

鳳委員 西条市としての目標やテーマは設定しないのか。

指導部長 現在、ESDという言葉が浸透していないため、急にESD推進を持ち出すと学校からは新しい取り組みをするのかというように受け取られるため、ESDという言葉が浸透する期間を作りたい。また、目標としては、あくまでSDGsの17の目標のひとつである4番の「質の高い教育をみんなに」に向かって、各学校にあった取り組みを目指したい。

福田委員 4番の「質の高い教育をみんなに」を基本としながら、SDGsの17の目標のなかで、子どもたちが日常において取り組みたいと思っていることや、疑問に思っていることなどを、先生がESDの考え方に則ってサポートしながら学習を進めていくということになるのか。

指導部長 そのようなイメージになる。

河本委員 ESDは、今まで学校がまったくしていないことではない。総合的な学習の時

間や日々の教育活動、授業のなかで実践しているところと繋がっている。学校で取り組んでいるものをE S Dの視点で見直すことで、改善したり、広めたり深めたりすることが必要になると思う。

教育長 現在、各学校を訪問しているところであるが、学校教育方針、学校教育計画のなかにSDG s、E S Dを明確に位置づけているところはない。そのようななかで中川小学校は、SDG sの17の目標と自分たちの教育の関連を表にしている。4番の「質の高い教育をみんなに」は学校の使命であると考えているが、各学校で進めている地域づくりなどは、11番の「住み続けられるまちづくりを」に繋がっている場合がある。中川小学校が令和3年度に計画している「中川大好きプロジェクト」では、「地域に貢献する」というものがあり、これはまさに11番の「住み続けられるまちづくりを」に繋がっている。これまでの教育とE S Dの関係を整理していくことが大事になる。地域社会が生き残っていくためには、学校教育が果たす役割は大きいと考えている。

市長 SDG sの言葉がでてきたことでより意識が強くなると思う。次回11月の会議のときに本市の方向性を示すことができるように市長部局と教育委員会で連携を図っていただきたい。

(2) 学校給食施設整備に係る事業手法の検討について

【管理部長から説明】

福田委員 安心安全が一番。保護者、子どもたちが納得する運営をしてほしい。そのためには、情報を共有すること、そして市民、保護者、子どもたちへの丁寧な説明を心掛けてほしい。

一色委員 人間には失敗がつきものだと思うが、万が一、何か発生した際にその後どう対処するか仕組みとして組み込まれていなければいけない。今回、仕組みが変わることで良い部分と難しい部分がでてくると思うが、その点を明確に伝えたいうえで、みんなで協力して仕組みを取り入れるためには何が必要なのかわかってくると、我々が家庭の中で何をすればよいのか見えてくるのではないかなと思う。

管理部長 まず、安心安全を第一とすることは職員一同常に考えている。現在、栄養教諭の先生方を中心に食育、アレルギー対応等の検討を進めている。現場の声が施設に反映されるようにしていきたい。仮に、民間委託になった場合、県の栄養教諭の先生方、市が直接雇用する栄養士が連携して献立を作り、地元産の食材を購入し、それらをきっちり管理し、安心安全を担保していく。そのあたりをしっかりと説明していきたい。

市長 熱を持って、良い部分と心配な部分を丁寧に説明していく。学校給食の運営には、経営という視点の話もあり、なかなか理解されない部分もある。それぞれに思いがあるため、全員が納得することは難しい案件だが「私たちは間違いなく子どもたちに安全な給食を提供する」ということを伝えていく。

河本委員 西条市の給食はレベルが高く誇れるものだと思う。栄養教諭や調理師の方が長年積み重ねてきた実績やノウハウがある。現場を知る人の貴重な意見、声を大事にしてほしい。良いところが合わさって、子どもたちにとって一番良いものを提供できる新しい学校給食になってほしい。

市長 センター方式になることで衛生面は大きく改善される。あまりできていない地産地消の取組みを改善し、顔が見える食材を子どもたちに届けたい。今後の予定はどうか。

管理部長 学校給食会の専門部会である食育推進・食物アレルギー対応等検討部会で具体的な機能などを検討していく。庁内でも検討部会を設け、事業手法や予算を検討していく。

市長 皆さんの思いをしっかり受け止めてこの内容で進めさせていただく。

7. その他

福田委員 この1ヵ月のうちに子どもたちが巻き込まれる交通事故が日本全国で多発している。交通安全に係る啓発を図っていただきたい。自転車の乗り方や歩行のマナーなどを丁寧に指導していただきたい。

市長 時機をみて広報紙で発信していかなければいけないと考えている。安全協会、警察とも連携していく。通学路の標識の話など、事故が起こってから見直すのではなく、起こさないようにすることが大事。私たちにできることは対応していきたい。できていないと思うところがあれば遠慮なしに申し出ていただきたい。皆さんと一緒に考えることが大事だと考えている。よろしくをお願いしたい。